

はじめに

情報社会学会会員の皆様

「情報社会学会誌」第5 巻第2 号をお届けいたします。

本号は、査読審査を経た原著論文7 編を掲載いたしました。このうち5 本は、情報社会学会シンポジウム「多様な情報社会と組織の適応」（2010 年3 月実施）からの投稿論文です。異なる様相を示す情報社会を比較検討し、その差異を生み出す要因や構造、共通する要員などを分析しています。

原著論文「日本の政府開発援助のレピュテーション～ベトナム、パキスタン及びケニアの新聞報道の比較分析～」は、報道レピュテーション分析の方法を結果と考察をより精緻化しさらに、三カ国における世界五大援助国のレピュテーションを測定し、アカウントビリティと日本の援助に対するレピュテーションの特徴の把握を、定量的データを交えてわかりやすく説明した有意義な論文です。今後は、より広範囲のデータを分析し、問題点である日本のODA のあり方に寄与する研究に発展させていただくことを期待しています。

原著論文「情報と知識のエコシステム：概念と定義」は、生態学で検討されるエコシステムの概念を情報社会学にあてはめるための概念や定義の特定化を試みたものです。内容は、筆者の豊かな教養に支えられた情報社会の本質を明らかにするものであり、設計科学との関わりを論じた点なども含めて、情報社会学に対する貢献は大きいと考えます。

原著論文「多様な情報社会における大企業のイノベーションー 日本的オープンイノベーション実現へ」は、米国と日本のイノベーションモデルの違いを、数値的裏付けを交えて説明し、日本的な大企業のオープンイノベーションシステムを提案しています。現在の日本企業の活性化のために有用な論文と思います。提案されたシステムを企業で実践され、成功事例が報告されることを待ち遠しく思います。

原著論文「日韓中のナショナリズムと情報社会化によるその変動の比較考察」は、ノーラン・チャートを用いて、日本、韓国、中国のナショナリズムをめぐる軋轢を対象として、新たに三次元の図式化を試みたものであり、興味深い、意欲的な、独自性のある研究テーマであると思います。

原著論文「ネットワーク中立性におけるマルチステークホルダー・プロセスの役割」は、米国FCCによる規制や裁定、反トラストなどとの比較研究によって、ネットワーク中立性においては、マルチステークホルダーの参加による問題解決プロセスが有効であることを提示し、日本への示唆を与えるものであり、時宜にかなった、興味深いテーマです。ネットワーク中立性をめぐる議論をつぶさに整理し、そのアプローチのメリット、デメリットを比較提示したことは社会的意義も大きいと思います。

原著論文「米中におけるTwitter 受容の比較と考察ー 「多様な情報社会」が生まれるメカニズムの把握にむけてー」は、2009 年のエピソードをもとに、米中のTwitter の受容を

比較し、情報社会の多様化のメカニズムを明らかにするものであり、今後の情報社会を予測する上で、時宜にかなった、社会的意義の大きいテーマです。

原著論文「住民参加型による地域情報化ツールの開発と効果に関する研究- 携帯電話を使ったマッピングサイト作りと参加者の意識変化-」は、携帯電話のカメラ機能、GPS 機能、メール機能を活用して、いつでも、どこでも、誰でも簡単に地域情報を発信することができるシステム「あしあと.jp」を開発し、参加者の意識変化を明らかにしたものであり、実務的含意に富み、社会的意義のあるテーマです。コンテンツ作成に参加すると地域へのイメージと関心が向上し、情報発信を誘発する要因になり、地域活性化に結び付く可能性があることはとても興味深く、今後の研究成果に期待します。

以上、本号は時宜にかなった、興味深いテーマが取り上げられました。今後の研究に期待をしたいと思います。

会員の皆様からの積極的な投稿論文をお願いいたします。

2010 年11 月6 日

情報社会学会編集委員会
委員長 大橋 正和